

令和5年度 千葉県立野田中央高等学校 シラバス

教科	地理歴史科	科目	日本史B	単位数	4	クラス	3年1組
教科書	山川出版社「高校日本史B」(日B314)		副教材等	新詳日本史(浜島書店)			

1 学習の到達目標等

- ①我が国の歴史の展開を、諸資料にもとづき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察する。
 ②各時代の特色とその変遷の総合的考察を通じて、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深める。
 ③歴史的思考力をつちかい、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	1. 古代社会の形成 2. 農耕社会の形成と大陸文化	1. 日本文化のはじまり 1. 弥生文化と小国家の形成 2. 大和王権と古墳文化	○気候や地形、動植物相・植生の変化などの自然環境に着目し、人々の食料獲得方法や道具の変遷、呪術的風習、地域的な差異等を学びます。 ○集落立地、食料獲得方法と食生活の変化、富の蓄積、習俗や墓制の推移等の社会の変化を学びます。 ○小国の形成から大和王権にいたる過程と古墳文化の特色について学びます。	ノート、課題提出等
5	3. 律令国家の形成と古代文化	1. 飛鳥の朝廷と文化 2. 律令国家の成立と白鳳文化 3. 平城京と天平文化	○東アジア世界が大きく変動するなか、推古朝の国政改革が進んだことを学びます。 ○仏教を基調とする文化が開花したことを学びます。 ○大化改新を経て、律令国家が形成される過程を学びます。 ○律令制のしくみについて学びます。 ○中央集権体制のしくみと奈良時代の政治の動向について学びます。 ○国際色豊かな貴族文化が栄えたことを学びます。	ノート、課題提出等
6	4. 摂関政治と文化の和様化 1. 中世社会の成立	1. 平安遷都と唐風文化 2. 貴族社会と摂関政治 3. 国風文化 4. 院政と荘園 5. 平氏政権の登場 1. 鎌倉幕府の誕生 2. 執権による政治 3. 元寇と社会の変貌 4. 鎌倉の仏教と文化	○平安時代初期に、律令体制の再建が進んだことを学びます。 ○唐文化を消化した新たな文化が発達したことを学びます。 ○藤原氏による摂関政治が始まったことを学びます。 ○地方政治が転換するなか、武士団の形成が始まったことを学びます。 ○大陸文化を消化し、日本の風土や生活に適応した新しい貴族文化が進展していったことを学びます。 ○11世紀以降、公領の変質や荘園の拡大が進んだことを学びます。 ○院政のしくみについて学びます。 ○12世紀の保元の乱・平治の乱を経て、武家政権としての平氏政権が成立したことを学びます。 ○鎌倉幕府の成立過程とこの時代の武士の生活について学びます。 ○鎌倉幕府が、二元的支配からしだいに公家政権より優位に立つようになっていったことを学びます。 ○元寇の前後、宋銭の流入によって貨幣経済が進展したことや鎌倉幕府内で得宗の力が強まったことを学びます。 ○武家社会の成立や庶民の経済活動の活性化を背景に、新しい文化が広がったことを学びます。	ノート、課題提出等
7	2. 武家社会の形成と東アジア	1. 室町幕府の創設 2. 倭寇と東アジアの交易 3. 下剋上の社会と戦国大名 4. 室町文化	○鎌倉幕府の滅亡後、南北朝の動乱のなかで室町幕府が成立した過程について学びます。 ○倭寇の活動を背景にして、日明貿易・日朝貿易が展開したことを学びます。 ○産業経済の発達や庶民の台頭を経て、庶民の活動が従来の社会秩序を変える原動力になったことを学びます。 ○東アジア世界との交流のなかで、武家文化と公家文化の融合や庶民文化の発達がみられたことを学びます。	ノート、課題提出等

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
9	1. ヨーロッパ文化との接触と国内統一 2. 幕藩体制の成立	1. ヨーロッパ文化との接触 2. 織豊政権による全国統一 3. 桃山文化 1. 江戸幕府と大名・朝廷 2. 身分制度の確立 3. キリスト教禁止と鎖国	○大航海時代という世界史的背景のもと、日本に鉄砲やキリスト教が伝来したことを学びます。 ○織田信長・豊臣秀吉による天下統一の過程と、秀吉が実施した検地・刀狩・朝鮮出兵について学びます。 ○新興の大名や都市の豪商の精神を反映した豪壮華麗な文化が栄えたことを学びます。 ○江戸幕府の組織と大名統制、朝廷・寺社統制など、幕藩体制の特色について学びます。 ○近世社会の身分制度を学び、幕府による農民統制と農村における自治について理解します。 ○鎖国政策による貿易統制と禁教という側面とともに、オランダ・中国・朝鮮・アイヌとの交易が行われたことを学びます。	ノート、課題提出等
10	3. 近世社会の発達と町人文化 4. 幕藩体制の動揺と庶民文化の発達 1. 開国から明治維新へ	1. 幕府政治の進展 2. 経済と産業の発達 3. 学問の新傾向と元禄文化 1. 幕藩体制の動揺と政治改革の発達 2. 幕藩体制の危機 3. 新しい学問の形成と化政文化 1. 開国 2. 幕府の滅亡 3. 統一国家の成立 4. 近代国家をめざして 5. 殖産興業と文明開化 6. 明治初期の国際情勢	○17世紀中ごろ、強圧的な武断政治から学問などを尊重する文治政治に転換したことを学びます。 ○農業・商工業などの産業が、交通の発達や貨幣・金融制度の確立などと相互に関連して発達したことを学びます。 ○元禄文化は、商業活動の展開による都市発展と、町人の経済的繁栄を背景にした文化であったことを学びます。 ○財政難に直面した幕府では、享保の改革を経て田沼意次による改革が行われたことを学びます。 ○社会構造の変化による幕藩体制の動揺に対応するため、寛政の改革が進められたことを学びます。 ○内外の危機が深まるなかで実施された天保の改革が失敗する一方、雄藩が誕生してきたことを学びます。 ○洋学・国学などの新たな学問と思想が発展し、江戸を中心とする町人文化が形成されたことを学びます。 ○ペリーの開国要求で鎖国政策が転換され、日米修好通商条約の締結によって始まった貿易が社会に混乱をもたらしたことを学びます。 ○政治の主導権をめぐる争いが続くなか、薩長同盟の成立によって討幕の気運が高まり、大政奉還後の戊辰戦争で徳川方の勢力が敗れたことを学びます ○版籍奉還と廃藩置県によって天皇を中心とする統一国家が成立し、身分制度が廃止されたことを学びます。 ○学校制度の確立、国民皆兵が近代化に必要なとされたことを理解し、地租改正による近代的土地所有権の確立を学びます。 ○政府が積極的に近代化を進めた結果、交通や通信などのさまざまな分野で西洋化が生じたことを学びます。 ○政府が琉球・朝鮮に対して強圧的な態度で国境を画定させた一方、ロシアとは平和的交渉で国境画定を進めたことを学びます。	ノート、課題提出等
11	2. 立憲政治の形成と国民文化 3. 日本の近代化と東アジア	1. 政府専制への批判 2. 立憲政治の成立 3. 新しい文化の形成 1. 日清戦争と東アジアの変容	○士族反乱の鎮圧後、自由民権運動が活発化し、国会開設の勅諭が出された経緯を学びます。 ○松方デフレ期に民権運動は衰退し、大同団結運動によって運動が再燃したことを学びます。 ○大日本帝国憲法の制定後、初期議会で展開された政府と民党との対立の推移を学びます。 ○不平等条約の改正をめぐる交渉が、国際情勢の推移のなかで進展したことを学びます。 ○学校教育がしだいに国家主義化され、思想界でもナショナリズムの動きが現れてきたことを学びます。 ○日本と清の朝鮮へのかかわり方を学び、それが日清戦争をひきおこしたことを理解します。 ○議会運営のために藩閥と政党が接近し、政党の政治的影響力が高まったことを学びます。	ノート、課題提出等

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
11	3. 日本の近代化と東アジア	2. 「中国分割」と日露戦争 3. 工業化と資本主義の発達 4. 近代文化の発達	○帝国主義が広まり、中国分割が進められるなか、朝鮮・満州における利権をめぐる日露戦争がおこったことを学びます。 ○日本が朝鮮を植民地化した経緯を学びます。 ○1890年代に軽工業で産業革命が進展し、重工業もそれに続いたことや社会問題が頻発するようになったことを学びます。 ○文学や芸術の面で、伝統文化のうえに欧米文化を取り入れて国民的性格をもつ近代文化が形成されていったことを学びます。	ノート、課題提出等
	4. デモクラシーと第一次世界大戦	1. 第一次世界大戦と日本	○日露戦争後の政治がしだいに民衆の要求に応えざるをえなくなったことを学びます。 ○第一次世界大戦期に日本が中国侵略を進めたことと、大戦景気が産業と民衆にあたえた影響を学びます。	
12	5. 激動する世界と日本	2. 新たな国際秩序と日本への影響 3. 大衆社会の形成 1. 揺れ動く経済と中国侵略の本格化 2. 日中戦争と国内体制の改編 3. 太平洋戦争	○第一次世界大戦の前後、世界では国際連盟の創設や民族自決運動が展開し、国内ではさまざまな社会運動が展開したことを学びます。 ○第二次護憲運動の結果、政党内閣が憲政の常道となり、普通選挙が実現したことを学びます。 ○世界的なデモクラシーの風潮を受けて、実証的な学問研究が発達し、教育や文学にも影響をあたえたことを学びます。 ○昭和恐慌が深刻化するなかで満州事変がおこり、日本が国際的に孤立していったことを学びます。 ○政府の厳しい思想・言論統制が、軍部の台頭につながったことを学びます。 ○満州事変が日中戦争へと発展し、日本がドイツとつながりを深めたことを学びます。 ○日中戦争が長期化するなかで国民生活が深刻化することを学びます。 ○日米開戦の経緯を学び、「大東亜共栄圏」に組み込まれた人々の抵抗や戦時統制が強化されたことを学びます。 ○戦局が悪化し、戦争終結への動きが停滞するなかで本土空襲による大きな被害がおこったことを学びます。	ノート、課題提出等
1	1. 占領と国内改革 2. 国際社会への復帰と高度経済成長 3. 石油ショックと低成長の時代 4. 新しい国際秩序と日本の課題	1. 占領と日本国憲法の成立 2. 冷戦の開始と経済復興 1. 国際社会への復帰と対米協定 2. 経済の高度成長 1. 1970年代の国際社会と日本 2. 安定成長への転換 1. 激変する世界と日本 2. 停滞する日本経済と成長するアジア	○GHQの指令を受けて進められた民主化および非軍事化の内容と経緯、日本国憲法の制定について学びます。 ○アメリカとソ連を二つの極とする東西冷戦が始まり、アジア諸国が民族分断を余儀なくされたことを学びます。 ○冷戦下で、日米両政府が日本の経済復興を優先することで合意し、国際経済に復帰する体制が形成されたことを学びます。 ○朝鮮戦争の勃発など東西冷戦が激しくなるなか、日本が独立を回復した経緯を学びます。 ○日米安全保障条約の改定された経緯を学びます。 ○1960年代に経済の高度成長が実現し、大衆消費社会が到来したことを学びます。 ○経済成長を優先した結果、公害などの社会問題が生じたことを学びます。 ○国際社会が大きく変容するなかで、日本やアメリカと中華人民共和国との国交正常化が実現したことを学びます。 ○IMF体制の崩壊と石油危機により高度経済成長の時代が終わったことを学びます。 ○緩やかな経済成長を続けていた日本が、バブル経済とよばれる事態におちいった経緯を理解します。 ○冷戦終結後、EUなどの地域統合・地域協力がめざされる一方、世界各地で地域紛争が多発していることを学びます。 ○自民党の長期政権が崩壊し、政界再編や構造改革がめざされてきたことを学びます。 ○バブル経済の崩壊後、日本では新自由主義的な構造改革が進められたことを学びます。 ○世界で進むグローバル化の意味をふまえ、世界の中で日本が果たすべき役割を学びます。	ノート、課題提出等

3 評価の観点

関心・意欲・態度	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。
思考・判断・表現	歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
資料活用の技能	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
知識・理解	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

4 評価の方法

関心・意欲・態度、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解の4観点から総合的に評価する。
--

5 担当者からのメッセージ

確かな学力を身につけるためのアドバイス
* 年代や事件名・人名を暗記するだけでなく、歴史の流れをつかみながら理解するように努めてください。 * 歴史の見方は1つだけではありませんので、学習しながら自分の意見をまとめてみてください。 * 歴史は過去のもので、人間の営みという点では現代に通じる部分があります。現代のニュースや事象に関連づけて学習してください。 * 活発な発言や質問をし、意欲的に取り組むことで理解がより深まると思います。
授業を受けるに当たって守って欲しい事項
* チャイム着席 * 教科書・資料集・配布物をまとめるファイル※クリアファイルは不可 * 提出物の期限内提出厳守など * 授業中に配布されたプリントは捨てないこと。